

詩 生きる 谷川 俊太郎

(八王子市は、教出の教科書を使用している。)

二時間扱いの一時間目

第一・二次混合指導

(詩は、二とくまで第一次指導扱い、

三よむから第二次指導扱いとなる)

○ (教室に入りながら)おはようございます。

おはようございます。

○ それでは、プリントと鉛筆一本を用意して、それ以外は、しまってください。

消しゴムは。

○ 消しゴムもしまってください。

ええっ。

○ じゃあ、始めますから、筆箱もしまつて、プリントだけ出してください。

〈担任〉

・ じゃあ、ののかさん、大きな声で挨拶をしてください。

〈日直〉

・ 姿勢を良くしてください。

はい。

・ これから、三校時の授業を始めます。

はい。

・ よろしく願います。

よろしく願います。

○ よろしく願います。ええと、改めて、おはようございます。

おはようございます。

○ ええと、私、橘田って言います。六七歳

と七ヶ月になります。

六五歳の時に、百のクラスで授業をしようという志を立てました。今年の二月に、その百クラス目までいったんですけど、その後、「生きる」という授業だけで百クラス行おうというように思い、このクラスが八四クラス目になります。

おおう。

○ 今日、こうやってみなさんと授業できるようになったのは、船引先生がね、オツケーって言うてくださったからです。お隣の「ダ、ダイキ」先生。

ヒロキ先生。

○ あっ、ヒロって読む、大きいと書いて。「大樹」先生が、いいですよって、言うてくださったからです。

また、二田校長先生が、「どうぞ。」と言ってくれたので、「みなさんと会えてうれしいなあ。」と思っています。それもね。田中先生が、いろいろ準備してくださったんです。

○ 隣のクラス(二校時実施)のみんなも一生懸命にやってくれたんで、君達も大丈夫だと思います。

○ 今日の授業で大事にしたいことはね。想像とか連想とかを、うんと大事にしてもらいたいんです。特に、詩を味わうのってね。自由に想像したり連想したりすることが大事なんです。それをお願いしたいなと思います。

○ そこで、さっきね。消しゴムしまつてといたら「ええっ。」と出た。そういうのも

いいよ。心に響いたことを直ぐに口に出してください。

○ じゃあ、ウォーミングアップ。思いついたこと、さつと言つていいんだよ。できれば、三つぐらい応えてくれるといいね。「赤」りんご。

トマト。

クレヨン。

イチゴ。

血。(聞き取れないもの)

○ オツケー、オツケー。今の調子でいくといい授業になりそうです。

○ それでね。普段、多分、指名されたり、友達指名という方法でやつたりしているでしょうが、今日は、自由に言うてください。

○ 何種類か出た様だね。友達のを聞いていて「あっ。」と思つて、「あっ、そうだ。」と自分の連想が広がつたでしょう。だから、友達のを聞きながら自分のも言うんだよ。隣のクラスで一番よく聞こえたのはね。「赤」と言つたら、何だと思つた。「梅干つ。」と出たよ。

うはっは。

○ いいよね。梅干も、確かにそうだよ。(笑いが出る)意外と、その子、梅干が好きだったのかも分らないし、「おにぎりの中に一番入りたいのは梅干だ。」とかね。そういう連想があつていいんだよ。

私も梅干好きだよ。

○ ええと、食べ物が多かつたようだけど、食べ物以外もあるよね。信号とかね。あるいはね。「赤」と聞いたなら「情熱」なんて

いうことを…。

ああ。

そうかあ。

○ 結びつくでしょう、心のあり方みたいなものと。そうすると、面白いね。自由に広げてみてください。

○ じゃあ、次、「青」…。

○ まだ、待って。(あっはっは) 今度、三つ合わせて連想してもらいます。「青、黄、赤」。

信号。

○ 一個でなくて、いくつも出すんだよ。

○ ピーマン。

○ ピーマンもいいねえ。

○ パジャマ。

○ ああ、パジャマもいいなあ。あっはっは。

○ グランドのタイヤが色塗ってあるっていつてたよ。

あっあ。

○ チューリップ。

○ チューリップもある。

…。

○ 西瓜もあるじゃない。

あっ、そうかあ。

○ 西瓜の周りは、緑だけど青。それを切ると、中は赤いのや黄色いのもあるでしょう。

あっあ。

○ ピーマンも、さっき、言ったように。林檎もあるんじゃない。青林檎ってあるでしょう。

ああ、あるねえ。

えっ、あるの。

○ 星なんかもない。

あっあ、そうだ。

○ でしょう。あるいは、炎の色なんかもうだよ。

うだよ。

ああ。

○ 君等、理科の実験でさあ、塩をパッとや

って燃やしたことない。

ない。

あっ、ある、ある。

○ 塩を燃やすと。

緑。

○ 緑じゃあなかったな。黄色に近いんだな。

いい。火花なんかもそうでしょう。

ああ。

○ 鉄を燃やすと赤くなるとか。

あっあ。

○ いろいろあるんです。

○ さあ、こんなように、自由にね。今のように出してください。

六分三十秒経過

一 よむ 五名(連一名ずつ 音読)

○ さあ、次。これ、読んでもらいますが、

一遍くらい読んでみましたか。読んでみた

人、手を挙げて。

(ほぼ、全員挙手)

○ はい。長いなあと思った人。

はい。はい。(半数以上挙手)

○ はい、オッケー。もう暗唱してしまった

人。暗唱って、見ないで言えるように…。

(首を傾げる子あり)

○ そこまで行かない。今日と明日で、そこまで行きそうかな。

むり、むり。

○ 無理、無理ね。はい、オッケー。だけど

ね、意外と、意外とできる。いいね。

○ 早速、読みましょう。読む順番は、決ま

っていますか。

(顔を見合わせる。)

○ 決まってる。じゃあ、今日は、私が決

めていいですか。

(頷く。)

○ じゃあ、私が決めます。一番後ろ、あなた

たが一番目。二番目は、隣のあなた(同様に)。

五人の人に読んでもらいます。今日、黒板を読む、

一人目、二人目、明日の、

一番、(同様に) …五番。そして、黒板の

一人目、二人目、三人目ね。あなたから一、

二、三、…十五、十六人の人には回ってこ

ない。残念。

残念なことはない。

いいよ。

…。

○ それで、一番から十六番の人はね。明日、

時間があつたら、見ないで言う暗唱を、あ

なたが一番、優先順位一番。

えっ。(笑い声が起る)

○ あんたは、二番、三番…というように。

ええ。

いやあ。(笑い声も…)

○ 頑張ってください。

○ 五人に読んでもらいます。五つに分かれていたでしょう、これ。それぞれを連つて

言います。(連 板書)各連の一番最初の行の上に数字を1から5まで書いてください。

(各自 連に数字を書く。)

○ 書いた。書いたら鉛筆を置いて。それでは、読んでもらいます。最終ゴールは、これ、暗唱することだよ。そうすると、読む人、どう読む方も読みたい。聞く人、どう読んでもらいたい。

ゆっくり。

○ ゆっくり読んでもらいたい。

はつきり。

○ はつきり読んでもらいたい。もう一つ、はつきりさせるために大事なことは…大きな声で、いいね。立って読んでもらいます。

○ 聞く人、じゃあ、暗唱するんだから…。

静かに。

○ そう。静かに聞くのね。じゃあ、プリントを持ちなさい。腰を立てなさい。集中する。最後まで、黙って聞くんだよ。

○ 読む人、立って。ゆっくり、大きな声で読んでください。お願いします。

1番 あっ、素晴らしい。素晴らしい読み方。

2番 ああ、素晴らしい。張りのあるいい声だ。

3番 ああ、いいねえ、いいよ。

4番 ああ、いいねえ。堂々とした読み方だったね。

5番 ああ。いいね。いい読み方だった。

○ はい、置いてください。ええとねえ。力のある人達だなあ、と思いました。今の五人の人ね。自信のある読み方、そういうふうに感じました。聞く人もいいよ。集中して最後まで聞いていましたね。もう、今聞

ただけで、三連、覚えちゃったでしょう。ううん。

○ 何となく。「泣いて、笑って、怒って、自由だ」ってことでしょう。

○ ああ、それは分かった。

○ すると、大体覚えちゃったでしょう。

十二分四十秒経過

二とく(読後感の整理の話し合い)

〈題目〉(題を手がかりに話を始める)

○ それでは、私を見ていてください。

(題名と作者 ゆっくり、はつきり 板書)

○ 「生きる」という詩ですけれども、谷川俊太郎さんという名前、聞いたことありますか。

はい。

○ ある。君達の使っている教科書で、多分、二年生の時に、谷川さんのね、「アレクサンダとぜんまいねずみ」というレオニ作のお話を勉強したはずですよ。

○ 谷川さん、まだ、生きてます、八十歳くらい。非常にお元気です。テレビに出たりラジオにも出演したり、まだ、詩を作っています。まだ。みちおさんって知っていますね。まださん、百を過ぎていますが、まだ、作っています。と、いうように、二人とも元気。いろいろ面白い詩も作っています。○ この詩、一連から五連まで共通していることがあったでしょう。どこが共通していましたか。

「とういうこと」って、最後についている。

○ ああ、ついてるね。他には。共通しているのは。

○ 連の最初に、生きてるといこと。

○ ああ。最初の(板書しながら)「生きていく」といことの一行目と。

二行目。

○ 二行目は、何って書いてあった。

いま生きてるといこと。

○ ああもう、その二行は、覚えちゃったね。そういう覚え方をするんだよ。

(いま生きてるといこと 板書)

○ さあ、この二行は、どの連にも共通しているね。この二行を見て、気付いたことは何かありますか。

「いま」がついていなければ…。

○ 「いま」がつかなければ、二行とも同じ。

○ 同じ。「生きてるといこと、生きていく」といことと、繰り返しているね。繰り返しが多いでしょう、さっき、言ってくれたように、「とういうこと」(板書を指し)は、たくさん繰り返されているでしょう。いいね。「こと」といことだったら、殆どについていない。

ついてる。

○ 非常に多いですね。そういう詩ですね。繰り返すは、どんな働きがあるのかな。

強調。

○ あっ、強調があるね。強調するってことね。「生きてるといこと」を強調している。あと、下の方が繰り返されていたらけど、上の方も繰り返されていたでしょう。どこ

とどこに、上の方の繰り返しがある。

それは。

○ それは、というのは何連ですか。

二連。

○ 二連は、「それは」という繰り返しがあるよ。はい、素晴らしい。(それは 板書)

○ その他には。

いま。

○ 「いま」は、何連ですか。

四連。

○ はい、四連ね。(生——い——板書)

○ こういう書き方、分かる。(生——を指し)これ、分かる。

生きていますということ。

○ (い——を指し) こっちは。

いま生きていますということ。

○ こういうようにメモ風に書いている。四連は、(いま 板書)「いま」という言葉が繰り返されているね。

○ この詩は、繰り返しが多い詩だってことだね。こうやって繰り返すと何が生まれる。

リズム。

○ あっ、リズム、ね。リズムが生まれる。

リズムが生まれると、詩を聞いていると…。

読み易い。

○ あっ、読み易いね。あるいは。

覚え易い。

○ 覚え易い。じゃあ、五連全部、覚えられるね。

うつつ。

○ でしょう。これは、リズムを作ることによって、流れが出るように、そういう風に

考えて作ってあるの。

リズムの作り方は、繰り返しもリズムを作る一つだけでも、他にもリズムの作り方がある。いいね。君達、七五調という言葉

を習ったことない。五七調とか、七五調とか。

ない。

○ この学校の校歌をちょっと数えてごらん

なっているかもしれない。

○ なっているでしょう。ああ、よし、よし。

大概ね、古い学校の校歌って、七五調にな

っている。七五調ってのは、他に聞いたこ

とない。七、五つてのは。

五、七、五、七、七。

五、七、五、七、七。出て来ない。

○ 百人一首とか。

○ 百人一首とか。

短歌。

○ 短歌とか。五、七、五、七、七でなく、

五、七、五だったら。

俳句。

○ 俳句とかね。川柳とか、そういうのもそ

うだね。何で日本語では、そういうのがある

かっていうと、日本語に合っているの。こ

こにも、それが使われていない。「生きてい

る」って、これ何音。

五。

○ 五。「ということ」は。

五。

○ 「いま生きている」は、いくつ。

七。

○ 「ということ」は。

五。

○ そういうリズムも、この中に入れて作ってある。いい。そういう工夫をしている。

○ さあ、じゃあ、次だよ。この中には、題

は「生きる」だけど、「生きる」と書いてあ

る。

生きるは…。

○ ない。

○ ない。なくて、何ってある。

生きています。

○ 生きている、とあるねえ。(板書——ている)

そうすると、「生きる」と「生きている」の

違いが分かります、この詩がよく分かる。

そうすると、これ、動詞だから、変化さ

せると、この違いがよく見えてくる。こう

いう風に(板書——た)したら何て読む。

生きた。

○ 生きたって、どうということ。

死んでいる。

○ あっ、死んでいるね。ああ、よしよし。

死んでいる。私は、三年生の時には、こう

いう風に生きたって言ったら、死んでるか

い。

あっ。

○ 死んでないな。そうしたら何だ。別な言

葉で言ったら何ですか。

(眩きが聞こえるが……)

○ 時で言ったら何ですか。

過去。

○ 過去になる。これ(——た)を過去と言

ったら、これ(——ている)、何になる。

現在。

○ そうすると、これ（生きる）、何になる。こう並べると、過去、現在と…。そうすると、これは何に。

未来。

これから。

○ 未来にも見えるな。日本語って、難しい。そこがはっきりしていないんだけど。これ、未来。そうすると、現在のことを、漢字一字でいうと何。

今。

○ 今。そうしたら、これ、未来のことは何っていう。（今と板書）

後。

○ 後でもいいし。

次。

○ 先といつてもいいね。（先と板書）

○ 「今のことを一生懸命考えることによつて、これから先の『生きる』を考え、見つけた。」というのが、この詩。そう考えるといいの。

### 〈ひびき〉（詩の種、気付きを予想する）

○ さあ、そうすると、今を見ている（2 板書）二連は、何のことを観察したんだろう。見てごらん。二連は何を観察したんだろう。一言でいうと何だろうね。

美しいもの。

○ ああ、（美しいもの 板書）美しいものを観察したら、ああそうだと気付いたことがある。これから先、こういうように生きようと気がついたので。

○ （4 板書）四連は、何について…。何を観察

したの。

いま。

○ いまを（いま 板書）観察したの。

### 〈手引き〉（視写の指示 視点を与えて）

○ それじゃあ。「美しいもの」を観察したら、「あつ、そうだ。」と気がついたことがあるの。「いま」を観察していたら、「あつ、そうだ。」と気がついたことがあるの。それが何なのかを考えながら写してもらいます。

○ この紙、配ります。ここに日付けと名前を書くようになっていて。日付けと名前を書いたら鉛筆を置いて待っていてください。（詩の一部が抜けているプリントを配布）

○ 間違えたら消さない。そのまま、記念に残せばいい。世界に一つしかない、素晴らしい記念品だ。間違えたら、間違えたのもいい。（日付と名前を書き始める）

○ 偉いなあ。私が、書き終わったら鉛筆を置いて待っていてください、といったら、そういう風に見える人が多いね。先生の指示を正確に聞くってこと、ものすごく大事なこと。そういう力がついているのは、素晴らしい六年生です。友達が終わるのを黙って待っているというのも、これもね、うんと大事な勉強。待つ時には待つ。

○ さつ。みんな揃ったようですから、二連と四連だけ、今日はやります。ですから、このプリントの方の二連は、どこか、指さしてごらん。はい、二連はここね。四連は、どこか指してごらん。四連、ここね。二連と四連だけ書いてください。他は、書かな

いよ。今日は、二連と四連を書くんだよ。

字の大きさは、この字の大ききで書くの中に大体入るようになっていきます。いいね。そして、鉛筆の色を出すように書いてください。分かった。いいね。鉛筆の色だからどんな色。

黒。

○ そう、黒く見えるように。薄くて灰色に見えるような、年寄りには、見えないような字になっちゃう人がいるから頑張つて書くんだよ。いいね。姿勢をよくして最高の字だよ。展覧会をするからね、終わったら。

ええ。

ちよつとなあ。

○ さあ、頑張つて。記念品、残してもいいんだよ、記念品で。はい、どうぞ。

二十六分四十秒経過

### 三 よむ（手引きに従い黙読） 四 かく（プリントに視写 師は板書）

それはミニスカート

ブラネタリウム

ヨハン・シュトラウス

ピカソ

アルプス

すべての美しいものに出会う

そして

かくされた悪を注意深くこばむこと

いま遠 犬 ーる ー

地球 ー いる ー

どこかで産声 ーる ー

兵士 傷——

ぶらんこがゆれている  
いまが過ぎてゆくこと

三十一分四十秒経過

(板書を確認後、机間指導をする。五よむ番に  
なっている子には、読み方の説明をする)

○ ええと、間違えた人もいるようだけど、  
まだの人もいるようだけど、今、書いてい  
る字を書き終えたら、そこまでにしてくだ  
さい。今日は、時間が足りない。明日は、  
時間がありますので。

後ろから前に、今、書いたプリントを集  
めてください。

一連、覚えた。

○ あっ、すごいね。

ああ、間違えたあ。(いろいろな声あり)

三十五分経過

○ そう、間違えたのも記念品。

(集まったプリントを担当に)

○ さあ、それではね。見て回ったら、鉛筆  
の色が出ている人が多かったです。中には、  
少し薄い人がいるなあと思いましたが、よ  
かったと思います。頑張って一生懸命に書  
いてくれました。間違えるのも、自分は、  
そういう、六年生だったと、いい記念にな  
ります。

五 よむ

(板書 連一名ずつ 二名 音読)

○ じゃあ、あなた、所々抜けているけど、  
黒板を見ながら読んでください。立って、  
読めなければ手伝うから。どうぞ。

二連 すべての ということ を手伝う。

○ よし、オツケー。いいよ。はい、次の人、

たくさん抜けているけど、頑張つて。

四連 ほえる ゆくこと を手伝う。

○ ゆくこと、ね。いいよ。落ち着いてゆつ  
くり読んでくれたね。 三十七分経過

六 とく(詩の種を確認する話し合い)

〈語義〉(難語句の解消)・区分

○ 難しい言葉は、ありますか、二連。

ヨハン・シュトラウス

○ ヨハン・シュトラウス。これ、人の名前。

音楽家。

○ 音楽家ね。音楽家で作曲家。ワルツつて  
曲、知っているでしょう。

ああ。

○ ウィンナーワルツつて言葉、聞いたこと  
ない。

あっ、ある。

○ その、それを、この人が生んだんの。そ  
れで、親子とも同じ名前。お父さんは、ワ  
ルツの父。息子は、ワルツの王。どっちが  
有名。

父。

○ あっ、父の方が有名。

王。

○ どっちが有名といったら、父と王じゃあ、  
どっちが響きがいいの。

王。

○ だから、王の方が有名なの。『美しく青き  
ドナウ』という息子が作った曲、先生にピ  
アノで弾いてもらってください。いい曲の  
ようです。四小には、音楽の先生もいるで

しよう。その先生に、弾いてもらってくだ  
さい。

○ これ音楽家。これ(ピカソ)何する人か。

絵をかく人。

○ 絵をかく人、画家。すべてって分かるね。

全部。

○ 全部ね。全部書けないから、これは、美  
しいものの例です。いいね。ここは、例と  
考えるのです。全てかけないから五つ例を  
挙げてあるだけ。そう考えておくんだよ。  
○ 後は、いいかな。あっ、かくされたって  
どうこと。見えるの見えないの。

見えない。

○ 見えない。悪も分かるね。こぼむって何。

いやだ。

○ いやだつてことね。担任の先生は、女性  
だから、この学校にも恐い男の先生いない。

いる。

○ その先生に「来い。」っていわれたら、君  
達、顔を見るでしょう。ニコツとしている  
時だったら。

行く。

○ 行くけど、ちようとこういう顔(指で角  
を出す)だなあつていう時は。

逃げる。

○ あっ、逃げる。そういうのを、こぼむと  
いうの。注意深くというから顔色を見て考  
えるということ。いいね。

○ ここ(四連)、産声は、分かるね。

産まれたときの声。

○ 産まれたときの声ね。兵士が傷つく。傷  
つき方によっては、どうなる。

死ぬ。

- 死ぬ。生まれることと死ぬことが並べてあるね。こういうのを何という。逆のものを並べると何を何という。

逆説(逆接)

- 逆説、惜しいね。並べることだから、対比っていうね。

ああ。

- 特に違っているものを並べるとによってより目立つでしょう。これも技法です。技術です。詩の技法の一つです。(一)(二連)にも使っている。これ(悪)の反対は、何。

善。

- 善。こっち(美)は、美しいだから、これ(悪)は、汚いという意味もあるんだよ。美しいには、善という意味もあります。そう考える。

- 後はいいいね。「ぶらんこ」もやりたいけど時間がないから、これ、やらない。明日ね。

- じゃあ、これ、「それは」って何。

(傍線を板書)

前のこと。

四十分経過

- 前のことを指しているね。(一、二行目に括弧を板書)そうすると、この文は、生きているということ、いま生きていてということ、ミニスカート。意味分かる。

——。

- 分かんない。この下が省略されているのです。何が省略されているかというところ。何だと思う。

美しい。

- あつあ、ここに行くのね。そうしたら、

美しいものの例だから、「それは、生きていくということ、ミニスカートに会うということだよ。」

ああ。

- プラネタリウムに会うということだよ。いい。そう考えます。この詩には、どの連にも、この二行があるね。そうすると、この二行の働きが分かると、この詩が分かる。それでね、それが、何だというのを漢字でね。(門を書きながら)この二行の働きは、何だろうね。

聞く。

- 聞く、惜しい。「モン」って読む。

——。

- 問うだよ。(口を書き加える)この二行が、問うんだから、こっち、(三行目以降)何になる。

答え。

- 答え。この詩は、問いと答えで作られているってこと。

- この答えが、二種類ある。これ(二連)、どこで分ける。

すべて。

- ああ、こう分けられるね。(区分の括弧を板書)こっち(前)、具体例。いいね。

- はい、こっち(四連)、どこで分ける。

いまいまが過ぎてゆく。

- ああ、これとこれに分けるね。

(区分の括弧を板書)

- これ(前)は、目で見たり、触ったりできるものだな。これ(後)、出来る。

出来ない。

- 出来ないな、そうだな。だが、あることは、ある。

ある。

- あるって分かる。でも、触ることも見ることもできない。でも、あるんだな。「おおつ、ちよつと待ってくれ。」っていつて、これできる。「もう少しゆっくりやって。」っていつてできる。

無理。

- 無理だなあ。こういうことができる人がいるんだよ。ここ(腹のところ)で四角を描く)に、ポケットを持ってき、こうできる人がいる。

ドラえもん。

- あつ、ドラえもん。あつ、いいね。そういう風にイメージすると面白いでしょう。はっはあ。

〈心〉(詩を種の発見 詩を味わう)

- それでは、「美しいもの」を見て、「あつ。」と、気が付いたのは、ここ(二連の答えの前)に書いてあるか、ここ(後)に書いてあるのか。「いま」を観察してみたら、気が付いたのは、ここ(前)か、ここ(後)か、どっちだ。

後。(指す子あり)

- ここ、後だなあ。後の中のどれだ。普段気が付かないことで「あつ。」と気が付いたのは、何だ。

過ぎてゆく。

- あつ、過ぎてゆく。素晴らしい。(過に赤丸を板書)これに気が付いたの。これねえ、

普段、君達、意識しない。この教科書（光村）はね、この詩をいつやるかというね、六年生の三月にやるようになってるの。

卒業する前…。

○ そうすると、これがよく分かるの。君達も、三月になったら、この詩を思い出してください。すると、よく分かる。

○ さあ、ここ（二連）、こっち（前）か、こっち（前）か。

後。

○ やっぱり後。じゃあ、ここで気が付いたこと何。ここ（過ぎて）と動詞になっているね。ここ、二つ。

こぼむ。

○ 拒むことが一つ（板書）。もう一つは。出会う。

○ 出会うこと。出会う（板書）ことはよいこと。何に出会うこと。

美しいもの。

○ 美しいもの。そうだよ。食べ物だったら美しいと言わないで何というの。（美を○）

おいしい。

○ おいしいものに出会う。いいね。

○ 拒むは、何を拒むの。

悪。

○ 悪を拒む。（×を板書）どういう風に。

注意深く。

○ こういう風に（●を添える）拒まなくてはいけない。

○ この悪は、どこにあるの。見えるの、見えないの。

見えない。

○ 見えない。（かくされたに○を板書）隠れているのね。どこに隠れているの。心。

○ あっ、心。心でいいんだけど。ここでいうと、ちゃんと書いてある。どこに、隠れている。

美しいもの。

○ 美しいものの中に隠れている。この悪とこの例だね。教科でいうと、これ、何。理科。

理科。

○ これ（ミニスカート）は。

家庭科。

○ これ（ヨハン・シュトラウス）は。

音楽。

○ これ（ピカソ）は。

図工。

○ これ（アルプス）は。

分からない。

社会。

○ あっ、社会でもいいね。体育でもいい。

山登り、体育ね。そう考えてもいい。

○ そうしたら、プラネタリウムはね。理科、難しい言葉でいうと何。

サイエンス。

○ サイエンスは、科学ね。そうするとき、日本人の小学校六年生だったら科学の中に隠れている悪って何だ。

危険。

○ 科学の中の、日本人の六年生が、すぐ気が付かなくちゃいけない。最大の悪は、

何だ。

サリン。

サリンはまだ出てこない。

……。

○ サリンもそうだけど、それより、君等は、勉強したはずだよ。日本人の六年生だったら、すぐに響いてくれなければ困ることがある。先生（担任）は、泣いちゃうよ。

一酸化炭素。

○ あっ、まだ、そこまで勉強していないか。

塩素。

○ アンモニア。

○ 二か所で大惨事が起きた。

地震。

○ 日本だよ、そうかあ。

……。

○ ピカドンだよ。

ああ。

○ あっ、ああ。

ピカドンって。

○ ピカドンって何だよ。

爆発。

○ 何の爆発だよ。原子爆弾じゃないの。どこと、どこなの、二か所っていうと。

広島。

長崎。

○ 広島と長崎でしょう。

原爆かあ。

○ だけど、原子力も使い方によっては、これ（蛍光灯）になるんだな。そうだな。

○ その使い方に、これ（注意深く）が足りなかったために苦しんでいるのはどこ。



○ 日本。  
日本のどこ。

○ 福島のこと。

七よむ (指音読)  
〈余韻〉 詩って連想すると面白いなあ。

○ あっ、ちよつと時間が過ぎてしまった。暗唱の時間がないんだけど、終わります。本当は、一遍、読んだ方が気持ちがいいんだけど、ここで終わります。

せつかくですから。(担任)

○ ここを読むだけ、みんなで声を合わせて、声を出さなかった人のためにも。手を降ろして腰を立てて、お腹から声を出すつもりで、いいね。

○ 生きていくということ、このくらいのスピードで読んでください。はい。  
生きていくということ。

○ もう少し、声、出るね。最初からもう一度、はい。  
生きていくということ

(大きくなり鞭に合わせて読み続ける)

○ オッケー。もうこれだけ読めれば、消しても覚えられるから。時間がないから、今日はやらない。明日は、消して読めるように。そして、一番の人、明日は、一連でも二連でも、好きな連を見ないで言えるようになると思います。

○ それでは、終わりにします。私を見て、私に合わせて。「お疲れ様でした。」  
お疲れ様でした。

四十九分十五秒経過

〈板書事項〉

— ている 今  
生きる 先 谷川俊太郎  
— た 前

問

生きていくということ  
いま生きていくということ  
それはミニスカート  
プラネタリウム  
ヨハン・シュトラウス  
ピカソ  
アルプス

2 美しいもの

すべての美しいものに出会う  
そして  
かくされた悪を注意深くこぼむこと

4 いま (時間)

いま遠くで犬がほえる  
地球が回っている  
どこかで産声があがる  
兵士が傷つく  
ぶらんこがゆれている  
いまが過ぎてゆくこと